

平成22年3月期 第1四半期決算短信

平成21年7月30日

上場会社名 日本アビオニクス株式会社

上場取引所 東

コード番号 6946 URL <http://www.avio.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役執行役員社長

(氏名) 鈴木 俊一

問合せ先責任者 (役職名) 経営企画本部経理部長

(氏名) 梅林 日出男

TEL 03-5436-0600

四半期報告書提出予定日 平成21年8月7日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第1四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(％表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第1四半期	5,787	△15.3	△408	—	△460	—	△460	—
21年3月期第1四半期	6,832	—	△365	—	△402	—	△681	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第1四半期	△16.28	—
21年3月期第1四半期	△24.09	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第1四半期	30,076	6,689	22.2	208.37
21年3月期	31,035	7,149	23.0	224.65

(参考) 自己資本 22年3月期第1四半期 6,689百万円 21年3月期 7,149百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年3月期	—	—	—	—	—
22年3月期(予想)	—	0.00	—	—	—

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

- 上記「配当の状況」は普通株式に係る配当の状況です。当社が発行する普通株式と権利の異なる種類株式(非上場)の配当の状況については、3ページ「種類株式の配当の状況」をご覧ください。
- 22年3月期(予想)の期末配当は未定となっております。

3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(％表示は通期は対前期、第2四半期連結累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期連結累計期間	13,200	△9.8	△220	—	△380	—	△420	—	△14.86
通期	28,500	0.4	390	—	70	—	0	—	0.00

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注) 詳細は5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 有

(注) 詳細は5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第1四半期	28,300,000株	21年3月期	28,300,000株
② 期末自己株式数	22年3月期第1四半期	35,548株	21年3月期	34,747株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年3月期第1四半期	28,264,753株	21年3月期第1四半期	28,269,785株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因によって大きく異なる可能性があります。

種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る1株当たり配当金の内訳は以下のとおりであります。

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期 末	年 間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
第1種優先株式					
21年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00
22年3月期	-	-	-	-	-
22年3月期(予想)	-	0.00	-	未定	未定

(参考) 第1種優先株式配当金の額は、以下の算式に従い算出される金額であります。
ただし、計算の結果、第1種優先株式配当金の額が20円を超える場合は20円となります。

$$\text{第1種優先株式配当金} = 1,000\text{円} \times (\text{日本円TIBOR} + 1.0\%)$$

日本円TIBOR …… 毎年4月1日現在における日本円のトーキョー・インター・バンク・
オファード・レート(6ヶ月物)として全国銀行協会によって公表
される数値

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期におけるわが国経済は、日本政府による経済対策の効果により個人消費や生産の持ち直しの動きが見られるなど回復の兆しはあるものの、企業収益の大幅な悪化による設備投資の抑制の影響などにより引き続き厳しい状況で推移しました。

このような事業環境の中で当社グループは、販売店と連携して既存市場の深耕、新市場の開拓を推進するとともに、新規顧客の獲得に向けて新販売チャンネルの開拓などに努めました。

また、体表面温度を非接触かつ遠距離から測定できるといった特長から国際空港の検疫所等で感染症等による発熱者の確認に用いられていた赤外線サーモグラフィ装置が、新型インフルエンザの発生、拡大に伴い需要が急増いたしました。赤外線サーモグラフィ装置は、新型インフルエンザをきっかけとして報道等による認知度の向上とともに一般企業においても発熱者確認システムとして使用され始めるなど新たな市場を形成しつつあります。

当第1四半期における連結業績につきましては、新型インフルエンザ発生に伴い赤外線機器が好調に推移したものの、製造機器や映像機器が民間設備投資抑制の影響を受け大幅に減少したことから、受注高が71億10百万円(前年同四半期比26.0%減)、売上高が57億87百万円(前年同四半期比15.3%減)となりました。

損益に関しましては、前連結会計年度より実施している人件費等の削減を引き続き継続するとともに更なる固定費の削減に取り組んだものの、売上高の減少の影響を補うことができず経常損失4億60百万円(前年同四半期比58百万円悪化)となり、前連結会計年度に計上したたな卸資産評価損が当第1四半期はなかったことから前年同四半期比2億20百万円改善の四半期純損失4億60百万円となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ9億59百万円減少し、300億76百万円となりました。これは主に有価証券が11億99百万円増加したものの、現金及び預金が18億55百万円減少したためであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ4億98百万円減少し、233億86百万円となりました。これは主に借入金1億25百万円、支払手形及び買掛金が1億5百万円減少したためであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ4億60百万円減少し、66億89百万円となりました。これは主に四半期純損失を計上したためであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年3月期の業績予想につきましては、平成21年5月12日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）
該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

- ・ 定率法を採用している有形固定資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。
- ・ 繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

（会計処理の原則・手続の変更）

- ・ 請負工事に係る収益の計上基準については、従来、すべての工事について工事完成基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」（企業会計基準第15号 平成19年12月17日）及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月17日）を当第1四半期連結会計期間より適用し、当第1四半期連結会計期間に着手した工事契約から、当第1四半期連結会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。これによる損益への影響は軽微であります。

また、請負工事に係る将来の損失に備えるため、当該損失見込額を「工事損失引当金」として当第1四半期連結会計期間より計上しております。

（追加情報）

- ・ 従業員に対する賞与の支給に備えるため、従来、未払賞与を流動負債の「その他」に含めて計上しておりましたが、業績変動に対応した賞与のより適正な表示とするため、前連結会計年度の第2四半期連結会計期間より「賞与引当金」として支給見込額を計上しております。なお、前連結会計年度の第1四半期連結会計期間末に流動負債の「その他」に含めていた未払賞与の金額は5億10百万円であります。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,735	4,590
受取手形及び売掛金	7,409	7,457
有価証券	1,199	—
たな卸資産	7,468	7,694
その他	917	760
貸倒引当金	△5	△4
流動資産合計	19,725	20,498
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,087	2,127
土地	4,847	4,847
その他（純額）	987	1,025
有形固定資産合計	7,923	8,000
無形固定資産	282	312
投資その他の資産		
前払年金費用	1,503	1,521
その他	712	773
貸倒引当金	△71	△71
投資その他の資産合計	2,144	2,223
固定資産合計	10,350	10,536
資産合計	30,076	31,035

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成21年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,101	3,206
短期借入金	6,422	6,547
賞与引当金	338	272
工事損失引当金	4	—
製品保証引当金	203	237
その他	1,663	2,104
流動負債合計	11,732	12,367
固定負債		
長期借入金	6,708	6,708
再評価に係る繰延税金負債	1,321	1,321
退職給付引当金	3,611	3,475
その他	13	12
固定負債合計	11,654	11,518
負債合計	23,386	23,885
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,145	5,145
利益剰余金	△255	205
自己株式	△10	△10
株主資本合計	4,879	5,339
評価・換算差額等		
土地再評価差額金	1,809	1,809
評価・換算差額等合計	1,809	1,809
純資産合計	6,689	7,149
負債純資産合計	30,076	31,035

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
売上高	6,832	5,787
売上原価	5,275	4,488
売上総利益	1,557	1,298
販売費及び一般管理費	1,922	1,707
営業損失(△)	△365	△408
営業外収益		
受取手数料	—	5
受取保険金	—	4
貸倒引当金戻入額	13	—
その他	18	8
営業外収益合計	32	18
営業外費用		
支払利息	54	56
その他	15	14
営業外費用合計	69	70
経常損失(△)	△402	△460
特別損失		
たな卸資産評価損	259	—
固定資産除却損	10	1
特別損失合計	269	1
税金等調整前四半期純損失(△)	△671	△461
法人税等	9	△1
四半期純損失(△)	△681	△460

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報

(事業の種類別セグメント情報)

当社グループが製造販売する各種製品は、すべて電子応用機器であり事業区分が単一セグメントのため、該当事項はありません。

(所在地別セグメント情報)

当社グループは海外拠点を有しておりませんので、該当事項はありません。

(海外売上高)

前第1四半期(自平成20年4月1日至平成20年6月30日)

	アジア地域	その他の地域	計
海外売上高(百万円)	1,251	308	1,560
連結売上高(百万円)			6,832
連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	18.3	4.5	22.8

(注) 1. 国又は地域は、地理的な近接度により区分しております。

2. 各区分に属する主な国は以下のとおりであります。

アジア地域 中国、台湾

その他の地域 アメリカ、ドイツ

3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

当第1四半期(自平成21年4月1日至平成21年6月30日)

	アジア地域	その他の地域	計
海外売上高(百万円)	334	207	542
連結売上高(百万円)			5,787
連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	5.8	3.6	9.4

(注) 1. 国又は地域は、地理的な近接度により区分しております。

2. 各区分に属する主な国は以下のとおりであります。

アジア地域 中国、韓国

その他の地域 アメリカ

3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

6. その他の情報

(1) 製品区分別受注高及び受注残高

(単位：百万円)

期別 品目区分	前年同四半期 (平成21年3月期 第1四半期)		当四半期 (平成22年3月期 第1四半期)		(参考) 平成21年3月期	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高
情報システム製品	5,413 (16)	9,315 (6)	4,272 (30)	10,346 (25)	15,372 (70)	9,284 (21)
電子機器製品	2,875 (850)	2,055 (885)	1,468 (213)	848 (158)	8,082 (1,687)	677 (184)
赤外線・計測機器製品	1,318 (347)	2,025 (261)	1,369 (379)	1,548 (233)	5,737 (1,483)	1,457 (128)
合計	9,608 (1,214)	13,396 (1,153)	7,110 (624)	12,743 (417)	29,191 (3,241)	11,420 (335)

(注) 1. 製品区分については、従来、「情報システム製品」、「電子装置製品」、「製造装置製品」に区分しておりましたが、当四半期より、「情報システム製品」、「電子機器製品」、「赤外線・計測機器製品」に区分しており、変更後の区分に属する主要製品は次のとおりであります。
なお、本資料においては比較を容易にするため、「前年同四半期」及び「平成21年3月期」を変更後の製品区分に組み替えております。

品目	主要製品
情報システム製品	誘導・搭載関連装置、表示・音響関連装置、 指揮・統制関連装置、ハイブリッドIC
電子機器製品	映像機器、情報端末機器、製造・検査機器、プリント配線板
赤外線・計測機器製品	赤外線機器、工業計測機器

2. () 内数字は輸出額であり、内数であります。

(2) 製品区分別売上高

(単位：百万円)

期別 品目区分	前年同四半期 (平成21年3月期 第1四半期)		当四半期 (平成22年3月期 第1四半期)		(参考) 平成21年3月期	
	売上高	構成比 %	売上高	構成比 %	売上高	構成比 %
情報システム製品	2,664 (13)	39.0 (0.2)	3,211 (27)	55.5 (0.5)	12,654 (51)	44.6 (0.2)
電子機器製品	2,997 (1,185)	43.9 (17.3)	1,298 (239)	22.4 (4.1)	9,581 (2,722)	33.7 (9.6)
赤外線・計測機器製品	1,170 (361)	17.1 (5.3)	1,278 (275)	22.1 (4.8)	6,156 (1,630)	21.7 (5.7)
合計	6,832 (1,560)	100 (22.8)	5,787 (542)	100 (9.4)	28,392 (4,404)	100 (15.5)

(注) () 内数字は輸出額であり、内数であります。